

たになか かずみち
谷中 一路さん

JICA 海外協力隊 2019 年度 2 次隊

派遣国：ドミニカ共和国 職種：コミュニティ開発

2020 年 3 月に新型コロナウイルスの感染拡大により一時帰国後、
2021 年 3 月から再派遣

2021 年 10 月 3 日（日）中国新聞 SELECT 掲載



※中国新聞社の許諾を得ています

日本文化の継承に協力

「おはようございます!」。日本語のあいさつが飛び交う中、私の一日は始まる。異国らしからぬあいさつの理由は私の配属先にある。私は JICA 海外協力隊としてドミニカ共和国のドミニカ日系人協会で活動している。配属先は日本語学校の運営、盆踊り大会や運動会など多くの日本にまつわる行事を実施しており、私は協会運営を支援している。

日本の友人には、この国の日

系社会を知らない人も多い。日本ではブラジル移民が有名のようだが、その他の中南米諸国にも日系社会は存在する。ドミニカ共和国もそのひとつだ。第 2 次世界大戦後の 1956 年に日本政府の政策として移住が始まり、現在は千人前後の日系人がいる。日系 2 世、3 世、4 世もあり、日本とドミニカ共和国の両親の間で生まれた子どもが多く、両国が混在した新たなアイデンティティーが形成されているようにも見える。

日本では多文化共生社会の実現を政策として進めているが、この国の現状は未来の日本を反映しているようにも思える。配属先では日本文化の継承に力を入れており、和太鼓もその一つだ。赴任前は指導者が不足していたが、演奏経験者である同期隊員の協力の下、和太鼓の活動を推進した。今年 7 月、大統領官邸で日本人移住 65 周年記念式典があり、日系の子どもたちが和太鼓の演奏を披露する機会をいただいた。

演奏後の子どもたちの嬉しそうな顔が忘れられない。この機会に和太鼓に興味を持つ子どもが一層増えたらと思う。任期は残りわずかだが、日系社会に貢献できるよう自分にできることを日々模索していきたい。



大統領官邸であった日本人移住 65 周年記念式典で、
和太鼓をたたく子どもたち